

●第21回自然と環境講演会 4日 京都新聞に開催記事で紹介 50人参加

京都大学名誉教授 松井正文先生の講演「絶滅の恐れのあるカスミサンショウウオの生態について」、続いて京都府の取組みについて京都府自然環境課長の鈴木康久氏が報告、京田辺市環境課長の竹村卓司氏が「京田辺市の取組み」について報告。質疑応答では熱心な質問が続きました。「南山城村の巨大メガソーラ建設地における希少生物への影響は？」などの質問がありました。

●山城ボランティア交流会 1日

京都府北土木事務所が主催され基調講演を里山の会が行いました。城陽文化パークの大きな会議室でした。基調講演は正確に届きましたが、分散会では二つのグループの声が引き合って、聞き取りにくかったのが少し残念でした。山城地域と乙訓地域の河川清掃と道路清掃のボランティア団体の活動交流会が開かれ、かなり広域からの参加がされていました。基調講演を里山の会の活動を中心に紹介を行いました。放置されたごみは最終的に海に流れつくことになり、その海で生き物に大きな影響が発生している実態を説明しました。そして、川は暮らしの中を流れるといわれている実態の説明となりました。結論として各団体の活動が点から広がり線につながり、面へと発展させる必要性を強調しました。

●八千代エンジニアリングが来訪 2日

年末の27日に竹を使ってチップ化とかパウダー化の試行を行うので、そのノウハウを聞くということでこられました。その後の経過についての説明がありました。12月27日以後の経過は、淀川河川事務所の見解は、一業者が実施されることに対して許可を与える事には、かなり無理があるとして、拒否されたという返答でした。現在木津川の竹は無尽蔵といってもいいほど繁茂している。多くの業者から申し入れがあるので、一業者を特別に扱うことはできないとのことでした。次年度の取り組みができるようになればと挨拶がありました。

●夏原グラント活動支援助成金の第1次審査

が通過したので、第2次審査(プレゼンテーション)が19日(日)に大津市(志賀ビル)で行うから出席をするようにと連絡が入りました。新年早々の申請書類の作成でしたので、随分と神経をすり減らしました。申請用紙の書き込みが完成したのは、締め切り間際の1月31日5時でした。少し時間の延長を行っていただき、駆けつけぎりぎり申請書を届けることができました。1次審査の無事通過連絡は苦労の甲斐があったということです。第二次審査のプレゼンテーションの持ち時間は10分間で6分が発表で、残り4分が審査員からの質問とする配分だそうです。そして1;事業の目的で何をしたいのか 2;事業の継続性 3;自立の意欲について、が発表の3つのポイントとしているとのこと。8日の事務局会議において発表者に予定している大村副理事長に発表原稿の用意をお願いして、里山の会の農園での取り組みの紹介と農園環境の優れた点の協調を行って農園活動のすばらしさについて、しっかり説明することがいいのではないかと指摘がありました。大村さんには大変ご苦労になりますが、ご検討をお願いします。

●天ヶ瀬ダム放水路見学 6日

放水路トンネル掘削工事がかなり進展したので、河川レンジャー仁枝さんのお世話で見学会が実現できました。工事の完成は平成30年を見込んでいるが、進展状況からみて完成期日は4年の延期となるとのことでした。工事の総予算は580億円で放水量は最大毎秒600トンの計画です。今回の見学会で琵琶湖を含めた淀川水系の水管理、洪水対策に必要な排水トンネル工事と説明されました。

●木津川展 木津川流域センター 4日から始まる

今回の特徴は屋外でのイベントを充実させていることです。5日は魚とり 11日には野鳥観察会が企画されています。木津川の沿川で活動されている諸団体に活動発表と交流の場を提供するとして参加を呼び掛け、ご協力をお願いしてきました。年々発表内容が充実しています。ぜひともご来場ください。

●第34回京都木津川マラソン大会 第4回実行委員会 17日(金)18時に開催

総まとめを行います。 ご意見をお寄せください。

●10日(金) カスミサンショウウオの観察会に桜谷先生も来所いただくことになっています。

●河川レンジャー運営会議 17日 かしの木園(精華町)で開催 28年度活動計画の審査が行われます。